

学校応援プロジェクト 2025年度活動報告

中央大学附属横浜中学校 進路・キャリア学習プロジェクト

6月21日（土）に2025年度初めてとなる進路・キャリア学習プロジェクトを中央大学附属横浜中学校にて実施しました。この活動は、中学3年生に、大学で学ぶということについて具体的なイメージを持ってもらい、進学や将来のキャリアについて考える機会とすることを目的とし、中央大学が実施する「中央大学と附属校の教育連携プログラム」の一環として「なぜ大学で学ぶの？」をテーマに、毎年この時期に行なっています。

当日は、大学1年生から大学院生まで、中央大学附属横浜中学校・高等学校の卒業生も含む総勢29名のプロジェクトメンバーが参加しました。5班に分かれ、中学3年生の5クラスそれぞれの教室で「大学ガイダンス」・「キャンパスムービーの上映」・「アイスブレイク」・「キャリア相談」の4つのプログラムを展開しました。

大学ガイダンス

大学とはどういう場所なのか、各キャンパスや学部、授業やサークルなどの大学生活について、中学校と比較しながら説明しました。具体的に、実際に使っている大学生の時間割を紹介して、大学生の1日の過ごし方や大学生活をよりリアルにお伝えできるようにしました。中央大学に関するクイズでは、どの生徒さんも積極的に参加してくれて、とても盛り上がりました。



キャンパスムービー

多摩・後楽園・市ヶ谷田町・茗荷谷の4つのキャンパスそれぞれをムービーにまとめ、各キャンパスの「ここがすごい!」「絶対紹介したい!」と思ったスポットを紹介しました。特に、食堂の様子やメニューを上映しているときに、「美味しそう」「食べたい!!」などと反応を示してくれた生徒さんが多く、微笑ましく感じました。

アイスブレイク

休憩を挟んだ後に、アイスブレイクとしてミニゲームを行いました。学校応援プロジェクトが行う進路・



キャリア学習では、生徒のみなさんが説明を聞くだけの機会とせず、大学生と対話することで進学を含めた自分の将来や進路について考える時間をつくることを大切にしています。

ミニゲームも、常に、中学生と大学生とがお互いの心の距離を縮めることを意図して実施しています。

今回は、各班に1人ずつ大学生が入り、班対抗で「あたまおしりゲーム」を行いました。進行役からあらかじめ指定された

文字が語頭と語尾になる言葉を各班でひそかに一所懸命に探し出し、より長い1つを発表し合って、その文字数の多さを競うゲームです。ときには、大学生も予想していなかったような回答も出て、それには拍手と歓声が上がったりして、お互いの心の距離は、ぐんと縮まりました。

キャリア相談

最後に、緊張がほぐれたところで、班ごとに中学生が大学生にその場でダイレクトにどんなことでも質問・相談ができる、キャリア相談の時間を設けました。「大学でどんなことを学んでいるのか」「中学や高校でどんなことをやっておいた方がよいのか」といった質問に対して、大学での生活がよりリアルに伝わるように実際に大学で使っている教科書・プリント類のほか、個人の授業時間割を示しながら説明するメンバーや、自分のレアな経験をふまえて具体的なアドバイスに徹したメンバーもいました。

キャリア相談は、15分ごとに班を担当するメンバーを入れ替えて、異なる学部・専攻・学年の大学生と話すことができるようにしましたが、班によっては、途中で回答を打ち切らざるをえないくらいたくさんの質問が出たほどで、それだけ充実した時間を過ごすことができたのではないかと感じています。

2コマ・約100分間という限られた時間ではありましたが、たくさん交流ができ、最後は各クラスとも拍手と笑顔で終了することができました。事後アンケートでも、多くの生徒さんが肯定的な回答を寄せてくれました。今回の活動が、生徒のみなさんが将来のことを考えるきっかけになり、進路を考えるときに少しでも役立つことになるとしたら、私たちにとって、それに優る喜びはありません。

また、実際に中学生のみなさんと関わったことで、私たち大学生にとっても、授業や今後の活動について、新たな課題を見出したり、多くの学びを得たりすることができました。

中央大学附属横浜中学校の先生方、生徒のみなさん、ほんとうにありがとうございました。

